

I N D E X

第 26 回全国大会の御礼.....	2
研究奨励賞の推薦依頼（第一報）.....	2
夏の合宿研究会報告.....	3
冬の合宿研究会のご案内（第二報）.....	4
産学協同セミナーのご案内（第一報）.....	4
研究会の開催「テーマ：メディアの活用と教育・学習環境」.....	5
研究会の発表募集「テーマ：ICT を活用した FD と大学・高大連携」.....	6
論文誌特集号論文募集「特集：新時代の学習評価」のご案内（最終報）...	7
論文誌ショートレター増刊号論文募集のご案内（第一報）.....	8
第 13 期第 11 回理事会議事録.....	9
第 13 期第 12 回理事会・評議会合同会議・議事録.....	9
研究奨励賞候補者推薦用紙.....	10
新入会員.....	11
事務局からのお願い（お知らせ）.....	11
学会日誌等.....	12

日本教育工学会 第26回全国大会の御礼

副会長 山西潤一（富山大学）

日本教育工学会の第26回全国大会が、9月18日から20日の3日間にわたり金城学院大学で開催されました。1,000名を超える多くの教育工学関係者が全国から集まり、盛会裏のうちに終了することができましたこと心より御礼申し上げます。これもひとえに、会員の皆様はじめ多くの関係者の方々のご支援ご協力のおかげと感謝申し上げます。なかでも、充実した魅力に溢れる大会プログラムを企画していただいた、東原義訓大会企画委員長はじめ大会企画委員会の皆様、大会運営の労をとって頂いた、中田平大会実行委員長をはじめ金城学院大学を核に名古屋近隣から応援していただいた実行委員会の皆様には多大なご尽力をいただきました。全国第3位にランクされる緑豊かな美しいキャンパス、受付や会場でお手伝いをしてくださった品位溢れる学生さんの笑顔にも、訪れた参加者皆感銘を受けたことでしょう。

今回の大会では、現代的教育課題に対応した課題研究や一般研究など400件を超える研究発表、ワークショップなどが行われ、どの会場でも熱い議論が展開されていました。また、シンポジウムでは、教科教育学と教育工学との共同の可能性の議論や高等教育の質保証で、教育工学がどんな役割が果たせるかなど、教育工学研究の今後の広がり期待できる内容とともに、教育工学研究の過去を振り返り、今後の発展に向け、研究対象の広がり研究の質を高めるための議論に皆熱心に参加し、教育工学研究のさらなる発展が期待されました。

国際化対応も進み、韓国教育工学会会長のKim Dongsik漢陽大学教授、中国教育技術協会の劉雍潜秘書長、李龍内蒙古師範大学教授を招聘し、韓国、中国との教育工学研究交流の絆も一層深まりました。

多くの参加者が、教育工学研究の新しい潮流を感じながら、懇親会での金城学院大学の学生さんによるハンドベルコンサートの心に響く音色を思い出し、美しいキャンパスをあとにしたことと思います。

研究奨励賞の推薦依頼（第一報）

研究奨励賞候補者をご推薦下さい

第26回全国大会（金城学院大学）の研究発表者の中から、研究奨励賞の候補者を下記の要領でご推薦下さい。

発表をお聞きになっていない場合でも、論文集をご参考をお願い申し上げます。

選考の基準

1. 選考対象者は、本学会の会員であって、受賞時に40歳を越えていないこと。ただし、本学会入会時から5年を経過していない場合は考慮する。
2. 選考時点から遡って最後の年次大会での正式の研究発表登壇者であること。
3. 既に研究奨励賞を受賞している者でないこと。
4. 対象者の過去の研究業績を尊重すること。

注：研究奨励賞（1985年10月31日 理事会申し合わせ）

「研究奨励賞は、教育工学および関連領域に関する学問の奨励のため、有為と認められる新進の研究者に贈呈する。この奨励賞を受ける者は、本学会会員であり且つ研究大会において講演を行った中から、優秀な論文を発表した者から選定する。」

なお、理事・評議員・大会役員・座長担当者の方は率先してご推薦下さいますようお願い申し上げます。

★締め切りは、12月31日（金）とさせていただきます。

※ なお、推薦用紙は、10頁に掲載しております

2010年度 夏の合宿研究会報告

去る8月7日（土）、8日（日）の両日にわたって、2010年度夏の合宿研究会が福山大学社会連携研究推進センター（宮地茂記念館）において実施され、23名が参加しました。

初日は、木原俊行企画委員会委員長（大阪教育大学）の開会挨拶のあと、東原義訓氏（信州大学）より、「教育の情報化 これまでとこれから」と題した基調講演が行われました。東原氏は、まず、これまでのICT活用の歴史的な経緯を振り返りました。その中で、国の施策がハード・ソフト・コンテンツなどの整備から、CIOやICT支援員などによるサポート体制、モデルカリキュラムの開発へ、すなわち、物理的な整備から人に関する手当てへと変わってきていることを紹介しました。そして、今後の教育の情報化について、学習内容だけではなく学び方・指導方法を明記するよう学習指導要領を整備すること、ソフト・ハード・人材育成・組織・支援体制など真に役立つ環境の整備をすること、ICT活用のバランスを考えた持続的・発展的な教育実践を重視することという、3つのビジョンを示しました。また、これまでの知見から「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「学びあいによる知の創造や問題解決の支援」、「学習過程の記録・分析」にICTが有効であり、学校現場レベルでこういった点を重視すべきであると、提案しました。

続いて、金子大輔氏（北星学園大学）、島田 希氏（高知大学）の司会のもと、山中昭岳氏（和歌山大学教育学部附属小学校）、愛甲昌弘氏（三次市立三和小学校）、埴岡克明氏（広島市教育委員会）を登壇者に迎えて、「ICT活用・教育の情報化に関する事例報告」を行いました。山中氏からはブログで継続的に情報発信をすることで、自身の実践の振り返り、教師同士の情報交換などが促され、情報教育の意識化が進化したという報告がなされました。次に愛甲氏は、ICT活用の効果の3類型をもとに、表現力・思考力を育成するためのICT活用について紹介しました。埴岡氏からは広島市の教育CIO、学校CIOなどの制度についての紹介とその効果についての報告がなされました。実践事例の報告後は、参加者全員で、全校でICT活用を推進させるための体制や意識のあり方などに関する議論を繰り広げました。

1日目の最後はグループに分かれて、今後、学校現場に導入が見込まれる電子黒板・レスポンスアナライザー・携帯電話を実際に操作しながら、授業での活用場面を検討するワークショップが催されました。参加者はこれまでの経験をもとに、具体的にどのような活用法、活用場面が考えられるかについて、熱心に議論しました。



2日目は、前日に検討した内容について、グループごとに発表をしました。電子黒板グループは、デジタル教材や自分で持ち込んだ素材を映し出し、そこに書き込む機能を活用する事例やスマートフォンを繋げた新しい活用法などを報告しました。レスポンスアナライザーグループの発表は、参加者全員が端末を持ち、発表者の問いかけにリアルタイムで答える形式で行われました。それは、具体的な活用場面がイメージできるものになりました。携帯電話グループからは、参加者が所属する小学校・高等学校・大学のフィールドに合わせた活用法についての提案がなされ、教育現場の実情を踏まえた課題と展望が報告されました。



最後に宮田仁企画委員会副委員長（滋賀大学）から2日間の取り組みに関する総括講演と閉会挨拶がなされ、全日程が終了しました。

両日を通じて福山市内を中心とした教育関係者が参加し、非常に中身の濃い議論が成立しました。また、今回の合宿研究会の成功は、登壇いただいた講師陣やスタッフ、ご参加いただいた学会員の皆様の支えがあってこそのものであります。改めてここに感謝の意を表します。

文責：内垣戸貴之（福山大学）

なお、当報告は松田岳士氏（山形大学）、稲垣 忠氏（東北学院大学）の協力を得て作成したものです。両氏に感謝いたします。

2010年度 冬の合宿研究会のご案内（第二報）

■テーマ：質的データを分析しよう！ -質的研究におけるデータ分析入門-

近年、教育工学の分野においても、質的な研究手法を用いた研究が増えてきました。質的研究手法は、量的研究手法のように仮説検証を目的とはせず、観察やインタビューなどで得られた質的なデータを、その個別性や具体性に即して分析し、その事象に内在する意味を明らかにしようとする手法です。

質的研究は、現象学や社会的構成主義などの多様な思想的背景を有しており、グラウンデッド・セオリー・アプローチやエスノメソドロジーなどの多様な手法が存在しています。質的研究のデータ収集やデータ分析に関して、いわゆる「ハウツー」は存在しないと言えます。

しかしこのことが、質的研究に取り組む際の高い障壁になっていることも事実です。ですから、とくに初学者にとって、まず基本的なデータ分析手法について知り、それらの手法をある程度使えるようにしておくことが必要です。そのため本合宿研究会では、基調講演などを通して質的研究について理解を深めるとともに、初学者でも利用しやすい質的データ分析手法「SCAT」を用いて、実際にデータの分析にも挑戦する予定です。質的研究に初めて触れる方だけでなく、すでに質的研究を行っている方にとっても、有意義な合宿研究会にしたいと思います。美しい雪景色の札幌で、みなさまとお会いできるのを楽しみにしています。

■期日：2011年02月19日（土）14:00 ～ 20日（日）12:00

■会場：チサンホテル札幌（札幌市中央区北二条西2-9）

- ・ <http://www.solarehotels.com/chisun/hotel-sapporo/>
- ・ JR札幌駅南口、札幌市営地下鉄さっぽろ駅・大通駅より徒歩5分
- ・ 新千歳空港からは、JRの快速電車を利用すれば40分程度で札幌駅に到着します。

■対象：質的研究に興味のある研究者、学生等

■定員：30名（定員になり次第締め切ります）

- ・ <http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=14037> よりお申し込みください。
- ・ 10月末までは学会員のみ参加申し込みが可能です。それまでに定員に達しなかった場合、11月1日より非会員の参加申し込みも受け付けます。

■参加費：12,500円（予定、1泊2食（夕朝）を含みます）

■プログラム（予定）

【一日目】02月19日（土）

基調講演：大谷 尚（名古屋大学大学院）

この後、SCATを用いたデータ分析に関するワークショップなどを行います。

【二日目】02月20日（日）

1日目に引き続きワークショップなどを行い、最後に全体でのリフレクションを行います。

※なお、SCATについては以下のサイトをご覧ください。

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/>

■開催担当・問い合わせ先：金子大輔（北星学園大学）

メール：kaneko@hokusei.ac.jp 電話：011-891-2731（代）（内線2208、金子をお呼び出してください）

*詳細及び参加申し込みの手続きについては、日本教育工学会Webサイトの該当ページにてご確認ください。

2010年度 産学協同セミナーのご案内（第一報）

■テーマ：

「産学で議論 教育工学の視点からの未来の学校（教室）～明日の教育現場でのICT利活用を考える～」(仮)

これからの学校教育におけるICT活用について、「デジタル教科書」や、それを使うためのデバイスや環境、さらにはクラウドを含むLAN等も含め、産学それぞれの立場から意見を示し、議論します。

■期日：2011年03月18日（金）13:00～17:00（予定）


■会場：パナソニックセンター東京

<http://panasonic.co.jp/center/tokyo/access/index.html>

日本教育工学会研究会

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

■研究会の開催

	研究会	テーマ：メディアの活用と教育・学習環境／一般
	2010	日時：2010年10月23日(土) 会場：茨城大学 水戸キャンパス (教育学部B棟) (〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1) 担当：関 友作 (yseki@mx.ibaraki.ac.jp)

- プログラム 発表時間：発表1件につき24分（発表19分程度，質疑5分程度）
A会場(203教室)，B会場(208教室)

10:05～10:10 諸連絡

10:10～11:50 午前の部

- A1) ICT活用学習環境での小テストと期末試験との関連
山本洋雄，中山 実，清水康敬（東京工業大学）
- A2) 「授業」環境を構築するラーニングシステムの開発
大岩幸太郎（大分大学）
- A3) 大学eラーニング課程におけるスタディスキルコンテンツの受講状況とその評価
向後千春，石川奈保子（早稲田大学）
- A4) 多人数授業における携帯チャット画面の共有に関する研究
服部友美，柳沢昌義（東洋英和女学院大学）

- B1) 保育者の専門性とメディアの活用方法に関する研究
中村 恵（奈良佐保短期大学）
- B2) 教授意図の分析に焦点を当てたICT活用による授業改善の考え方に関する教員研修の提案と試行
野村泰朗（埼玉大学），木村寿雄，関根光男（埼玉県立総合教育センター）
- B3) 授業評価アンケートと授業改善に関する教員の意識調査
－Webアンケートシステム「REAS」を用いて－
酒井浩二（京都光華女子大学），坂井美也子（池坊短期大学），
高井康弘（大谷大学），深田 守（京都薬科大学），行廣隆次（京都学園大学），
深野政之，川面きよ（京都FD開発推進センター）
- B4) 社会人向けMOT教育におけるICTを利用した協調学習支援に関する考察
新目真紀（名古屋工業大学大学院），櫻井良樹（NECラーニング(株)），
古俣升雄（東京工業大学大学院）

12:55～13:05 委員会挨拶・諸連絡

13:05～14:45 午後の部第一部

- A5) 電子教科書の現状と我が国の課題
清水康敬（東京工業大学），小泉力一（尚美学園大学），堀田龍也（玉川大学）
- A6) 教育分野における電子書籍活用に向けて
菅谷克行（茨城大学）
- A7) 「協働による知識構築活動」の参加の進展過程を可視化する分析技法を用いた教師の熟達化過程に関する検討
五十嵐亮（日本学術振興会），丸野俊一（九州大学大学院）
- A8) 中学校での協同的アクションリサーチによる学力向上の取り組みの成果と課題
小柳和喜雄（奈良教育大学）

- B5) ミツバチコロニーの連続的測定とデータ管理・解析システムの構築
高橋 舞（兵庫県立大学），赤松忠明（兵庫県立大学大学院），
堅田優希，西村直也，木村敏文，大橋瑞江，池野英利（兵庫県立大学）
- B6) 分解教材を用いた中学校理科における理科と工学を横断する指導方法の改善
林 壮一（立教新座中学校・高等学校），野村泰朗（埼玉大学）
- B7) 「漸化式と関数」とを対比させて身近な題材に数学を適用する力を育成するゲーミング教材
染谷 諒，松田稔樹（東京工業大学大学院）
- B8) 教師を対象とした学校図書館を活用した調べ学習の支援
今井亜湖（岐阜大学），河西由美子（玉川大学）

15:00~16:40 午後の部第二部

- A9) マンガ表現法に基づく多声的プレゼンテーション指導の実践
舟生日出男 (広島大学大学院), 鈴木栄幸 (茨城大学)
- A10) 電子媒体におけるマンガ読解
小島沙穂, 菅谷克行 (茨城大学)
- A11) マンガ教材における紙とデジタルのメディア比較
竹内俊彦 (東京福祉大学/教育テスト研究センター)
- A12) 大学でのマンガ教科書利用と学生評価
周村諭里, 柳沢昌義 (東洋英和女学院大学)
-
- B9) 潜在的学習者への市場セグメンテーションの応用可能性
-メディア (ブログデータ) の教育における活用例として-
加藤淳一, 石川雅弘 (つくば国際大学)
- B10) 読解時のアノテーション量と記憶の関係に関する研究
柳沢昌義 (東洋英和女学院大学/教育テスト研究センター)
- B11) 英語多読のための図書館の役割
吉岡貴芳, 伊藤和晃, 西澤 一 (豊田工業高等専門学校)
- B12) 日本語版アニメをアメリカの小学生はどう見たのか -質問紙調査の分析から-
塚本美恵子 (駿河台大学)

●参加費用:

参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金 (3,500円) を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。尚、年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりませんのでご注意下さい。

●交通案内:

公共交通機関をご利用ください。詳しくは、茨城大学Webサイトの「アクセス・キャンパス案内」をご参照下さい。 <http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/index.html>

●昼食案内:

研究会当日は大学生協の食堂および購買が営業しております。

■研究会の発表募集

【テーマ: ICTを活用したFDと大学・高大連携/一般】

日 時: 2010年12月18日(土)

会 場: 大分大学 (担当: 尾澤重知)

申込締切: 2010年10月17日(日)

原稿提出: 2010年11月14日(日)

募集内容:

高等教育におけるFD義務化、教育の質保証やIR (Institutional Research) の重視などの流れを受け、これまで以上にFDの組織化や、組織的なFDの取り組みが求められるようになってきました。このような大学内部の動きと同時に、大学間の連携によるFDのネットワーク化や、教育研究面での共同、また、高大連携などの動きも活発になってきました。いずれもICTの利活用や教育工学分野の知見が期待される分野であり、多くの実践研究が進められています。

そこで本研究会では、ICTを活用した教育改善の取り組み、大学間・高大連携による教育実践やFDのネットワーク化、組織的な大学改革に取り組んでおられる方々の発表を募り、議論や情報共有を行いたいと考えています。また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●発表募集に関して

- ・発表申込締切から原稿提出締切までの期間が短くなっておりましてご注意ください。
- ・申込方法: 研究会Webページよりお申し込み下さい。
(<http://www.jset.gr.jp/study-group/>)
- ・原稿執筆: 締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。
- ・原稿提出: 原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してお申し込み下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、キャンセルとさせていただきます。
- ・研究会終了後に大分市内にて情報交換会を開催いたします。詳細は研究会Webページで後日ご案内する予定です。

■年間予約購読のお勧め

研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です (当日売りは1冊1,000円と割高になります)。研究会の受付でも年間購読を受け付けております。

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「特集：新時代の学習評価」のご案内（最終報）

近年、学習理論の主流が構成主義に変化してきたことにより、評価理論はテストのみによる評価から、より自然で真正な文脈における評価へ移行しつつあります。一般の社会では人の能力をペーパーテストのみで評価することは少なく、むしろパフォーマンス（成果）で評価することのほうが多いといえます。また、一人の審査者が評価するより共同体の複数のメンバたちが評価することのほうが多いともいえます。最近の学習評価では、このような自然な学習評価の環境を重視し、従来からのテストの仕組みから抜け出し、より真正で実践的な評価が提案されつつあります。この特集号では、新時代の学習観、知識観に基づいて提案された新しい学習評価手法の理論研究、システム開発研究、実践研究についての論文を募集します。

1. 対象分野

- (1) 評価手法の開発・適用・実践（ポートフォリオ、ルーブリック、ピア・アセスメント、真正な評価、ダイナミック・アセスメント、など）
- (2) 評価システムの開発と適用・実践（eポートフォリオ、eテストング、教育データマイニング、自動作問、学習者協調作問環境、小論文自動採点技術、など）
- (3) 生理情報を用いた学習評価（脳科学、眼球運動、血圧情報、など）
- (4) 新時代の学力調査（PISA、新しい学力、学力観の変容に対応する評価、大規模学力調査、など）
- (5) 教育組織の評価（学校評価、大学評価、費用対効果、など）
- (6) 教育の質保証と評価（FD、ディプロマ・ポリシー、学生による評価、など）
- (7) その他の「新時代の学習評価」に関する理論・手法・システム開発・実践など

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に、「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します。投稿規程は通常の論文誌の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

3. 論文投稿締め切り日（2011年11月発行予定）

投稿原稿を2月8日までに電子投稿をお願いします。ただし、2月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：**2011年02月08日（火）**

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：**2011年02月15日（火）**

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けませんことになりました。

5. 特集号編集委員会

編集委員長：植野真臣（電気通信大学）

副編集委員長：中山 実（東京工業大学）

編集幹事：森本康彦（東京学芸大学）

委員：赤倉貴子（東京理科大学）

小川賀代（日本女子大学）

柏原昭博（電気通信大学）

加藤 浩（放送大学）

木原俊行（大阪教育大学）

黒上晴夫（関西大学）

佐々木整（拓殖大学）

田口真奈（京都大学）

永田智子（兵庫教育大学）

仲林 清（千葉工業大学）

橋本貴充（大学入試センター）

東原義訓（信州大学）

平嶋 宗（広島大学）

藤原康宏（岩手県立大学）

堀田龍也（玉川大学）

松原行宏（広島市立大学）

光原弘幸（徳島大学）

三輪和久（名古屋大学）

村上正行（京都外国語大学）

室田真男（東京工業大学）

望月俊男（専修大学）

山内祐平（東京大学）

吉川 厚（東京工業大学）

6. 問い合わせ先

日本教育工学会事務局

電子メール：editor@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505

日本教育工学会論文誌 ショートレター増刊号論文募集のご案内（第一報）

日本教育工学会論文誌 vol. 35, Suppl. の発行

論文受付締切：2011年4月1日（金） 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌Vol. 35, Suppl. は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規程及び原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。ショートレターの採録条件は、以下のようになっていますのでご注意下さい。

1. 刷り上がり4ページ厳守です。（4ページを超えるものは採録しない）
2. 筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。
非会員の筆頭著者は、投稿時に入会手続きと会費納入をする必要があります。
3. 会員は本ショートレターを年1件に限り投稿できます。
4. 2011年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・教育システム開発、教育実践研究など
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご投稿下さい。特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけて下さい。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させ、まとめて論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ショートレターの査読日程予定(2011年度)：

- 4月 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 増刊号発行予定

論文投稿の仕方：

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい。投稿論文は電子投稿のみ受け付けています。

問い合わせ先：

電子メール： short@jset.gr.jp
Tel/Fax：03-5740-9505 日本教育工学会事務局

第13期第11回理事会議事録

日時：2010年09月11日（土）14:40～16:10

場所：聖心女子大学 3号館4階341番教室

出席：（理事）永野和男会長，山西潤一副会長，赤倉貴子，大久保昇，小柳和喜雄，黒上晴夫，
清水康敬，堀田龍也，前迫孝憲，宮田 仁，山内祐平，矢野米雄
（監事）近藤 勲

最初に永野会長より，委任状によって定足数に達していることが報告された。

- 1 第13期第10回理事会議事録を承認した。
- 2 会員の移動について承認した。昨年度末に卒業・修了予定の学生会員については，通知の上，自動的に准会員に移行していることが報告された。
- 3 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
 - 1) 清水編集長より編集の進捗状況について報告された。
 - 2) 特集号35巻3号「新時代の学習評価」の特集号編集委員を決定した。
 - 3) 論文査読システムのリニューアルは最終チェック段階である。
 - (2) 研究会委員会
小柳委員長より2011-2012年度の研究会開催日程および会場校の案が提案された。
 - (3) 企画委員会
 - 1) 宮田副委員長より冬の合宿研究会のチラシを全国大会で配布する件について報告された。
 - 2) 他学会との研究会共催の方法について検討していくこととなった。
 - (4) 大会企画委員会
前迫副委員長より全国大会準備は順調であること，大会時の各種委員会の開催等が報告された。
 - (5) 顕彰委員会
全国大会全体会時に三宮委員長が欠席となるため，山西副会長が報告を担当することとなった。
 - (6) 国際交流
全国大会に参加する韓国・中国の招待者等について詳細に説明された。
 - (7) 特別企画(FD)
黒上副委員長より委員の増強について計画中であることが報告された。
 - (8) 広報委員会
 - 1) 赤倉委員長よりニューズレターNo.174より新版となったことが紹介された。
 - 2) 永野会長より学会HPの見直し（特に英語部分）を進めてほしいとの希望が示された。
 - (9) 事務・統括
 - 1) 永野会長より次回の理事改選選挙のための選挙管理委員会を設置することが提案され，南部理事，山内理事にお願いすることとなった。
 - 2) 永野会長より経理管理の整備の状況について詳細に報告された。
 - 3) 永野会長より教育工学選書について，「教育工学選書委員会」を理事会のもとに構成して数年の計画で推進することが説明された。

第13期第12回理事会・評議会合同会議・議事録

日時：2010年09月19日（日）12:40～13:45

場所：金城学院大学W4号館4101教室

出席：（理事）永野和男会長，永岡慶三副会長，山西潤一副会長，赤倉貴子，赤堀侃司，植野真臣，
大久保昇，小柳和喜雄，木原俊行，黒上晴夫，向後千春，澤本和子，清水康敬，
南部昌敏，野嶋栄一郎，東原義訓，堀田龍也，前迫孝憲，宮田 仁，村川雅弘，室田真男，
山内祐平，吉崎静夫
（評議員）石塚丈晴，稲垣 忠，大谷 尚，岡本敏雄，加藤 浩，黒田 卓，鈴木克明，高橋 純，
中原 淳，中山 実，野中陽一，長谷川元洋，美馬のゆり，柳澤昌義
（監事）生田孝至，近藤 勲

- 1 第13期第11回理事会議事録を承認した。
- 2 学会活動の現状について

- (1) 永野会長より、他学会との研究会共催の方法については企画委員会で対応することとなったこと、このような新規事業は大いに奨励されるが、今後は理事会あるいは特別委員会を立て、予算的な対応も行うことが報告された。
- (2) 赤堀国際交流担当理事より全国大会での韓国と中国からの招待について紹介された。
- (3) 永野会長より経理管理の整備の状況について報告された。
- (4) 永野会長より選挙管理委員会を設置し、南部理事、山内理事にお願いすることが報告された。
- (5) 永野会長より「教育工学選書委員会」を正式に発足させ任期を3年とすることが報告された。
- (6) 堀田事務統括担当理事より2011年度の理事会等の日程について案が説明された。
- (7) 村川特別企画(FD)理事より特別企画委員会を構成する旨報告された。

3 今後の学会の活動について（評議員等より）

出席評議員に意見が求められ、評議員より次のような発言があった。

- ・ポスター発表の会場が狭かった。掲示したポスターの周りの空間の配置が必要である。
- ・大学で取り組まれているGPの発表の場として本学会が認められることは望ましい。
- ・大会の発表時間10分、質疑4分は忙しすぎ議論ができない。
- ・奨励賞の対象は全国大会での発表のみが対象であるが、範囲を拡張することも考えられる。
- ・新しいニューズレターはカラーでとてもよい。
- ・合宿研究会に関する会計について検討してほしい。
- ・全国大会の講演論文集はCD-ROMとし冊子はオプションとしてはどうか。
- ・教育工学で科研費を獲得した研究者に入会を促すようなことも考えてはどうか。
- ・学会の活動成果は教育工学選書となって公表されるが、その時に外部から評価されることになる。
- ・学会運営、特に会計処理等の改善はよい方向に向かっている。
- ・学会HPの英語版の更新をできるだけ早く進めてほしい。
- ・評議員の意見がどのように取り扱われたかについての報告がほしい。

4 その他

- (1) 東原大会企画委員長より、9月19日現在の受付通過者は835名であることが報告された（最終的には1,002名）。
- (2) 大会運営に関するメール問い合わせが多いが、ニューズレターや学会HP等で公開している情報を調べることなく質問している例、期限を過ぎてからの受付要請など社会常識に欠ける問題があることが指摘された。
- (3) 永野会長より、2011年度からは理事からの企画提案に対して予算化することを考えていることが示された。

以上

----- キリトリ線 -----

第26回 研究奨励賞候補者推薦用紙

候補者氏名	講演番号	推薦者

日本教育工学会
Tel/Fax : 03-5740-9505
E-mail : office@jset.gr.jp

新入会員

(2010年07月13日～09月06日) 87名(正会員:29名,学生会員:47名,准会員:10名,維持会員:1社)

■正会員 29名

奥 知樹 (富山高等専門学校)
岡 哲生 (大阪大学)
村上智子 (山口県立宇部総合支援学校)
池谷のぞみ (パロ・アルト研究所)
豊増伸治 (みさと天文台)
東 宏乃 (湘南工科大学)
小島健太郎 (九州大学)
中西 浩 (大阪大学)
郡司貴之 (湘南工科大学)
宇田隆幸 (近畿大学工業高等専門学校)
清水義彦 (富山高等専門学校)
小島篤博 (大阪府立大学)
伊藤一成 (青山学院大学)
南谷和範 (大学入試センター)
岸 康人 (津田塾大学)
武田俊之 (関西学院大学)
クーパー トッド (富山高等専門学校)
赤澤 幸 (国際交流基金
日本語国際センター)
加藤美治 (武蔵大学)
古屋憲章
後藤昌人 (金城学院大学)
下木戸隆司 (鹿児島大学)
小林昭文 (聖徳学園中学・高等学校)
山田真司
藤倉純子 (女子栄養大学)
石井照夫
駒形千夏 (新潟大学)
石田 亨 (情報科学芸術大学院大学)
中澤貴生

■学生会員 47名

董 玉婷 (京都大学大学院)
山崎光晶 (岩手大学大学院)
上田健太郎 (東京工業大学大学院)
貝原有香 (青山学院大学大学院)
田中昌史 (兵庫教育大学大学院)
向山ひろみ (早稲田大学大学院)
森 裕生 (大分大学大学院)
石垣雅人 (静岡大学大学院)
大島 健 (名古屋大学大学院)
宇都雅輝 (電気通信大学大学院)
鄭 一 (東京工業大学大学院)
北川頌悟 (中央大学大学院)
川上博之 (長崎大学大学院)
宮澤芳光 (電気通信大学大学院)
神谷直輝 (静岡大学大学院)
西垣裕仁 (長岡技術科学大学大学院)
久和広実 (徳島大学大学院)
高浪祐輔 (徳島大学大学院)
平井沙織 (鳴門教育大学大学院)
関谷紳吾 (千葉大学大学院)
原田邦彦 (愛知教育大学大学院)
河合絢也 (東京理科大学大学院)
藤谷元子 (東京工業大学大学院)
福嶋 俊 (千葉大学)
村上博希 (徳島大学大学院)
高橋孝徳 (東京電機大学大学院)
石川里佳子 (筑波大学大学院)
渡口聡則 (拓殖大学)
青木太郎 (熊本大学大学院)
馬場園智基 (埼玉大学大学院)

浅野総一郎 (日本工業大学大学院)
安井明代 (名古屋文理大学)
大田祐輔 (拓殖大学)
工藤由斗 (拓殖大学)
神崎真行 (広島国際大学)
石川清香 (千葉大学大学院)
八木康徳 (広島国際大学)
廣畑佑樹 (広島国際大学)
新田裕希 (広島国際大学)
川西 徹 (広島国際大学)
川口弥生 (中京大学大学院)
三嶋亜由美 (中京大学大学院)
千野恭平 (東京電機大学)
木村貢謙 (広島国際大学)
重田安紀 (広島国際大学)
西野木省吾 (広島国際大学)
杉浦真由美 (早稲田大学)

■准会員 10名

堀田敦士 (東京堀田制作集団)
高砂俊克 (岩見沢市立第二小学校)
鈴木敬子
鷲尾健仁 (新潟市立亀田東小学校)
島崎のぞみ (慶應義塾大学)
吉田明恵
平野宏子
中山仁史 (香川高等専門学校)
鳥越和貴 (横浜市立北方小学校)
渡部直樹 (柏崎市立野田小学校)

■維持会員 1社

株式会社 シーイー・フォックス

事務局からのお願い(お知らせ)

※住所・所属・メールアドレス等の登録情報に変更がございましたら、学会事務局 (office@jset.gr.jp) まで必ず変更内容のご連絡をお願い致します。

※2010年3月卒業見込みと登録され、その後特に変更のご連絡がなかった学生会員の方は会員種別が『准会員』に変更となっています。該当する方は、勤務先の情報(所属・住所・電話番号等)を事務局へお知らせ下さい。正会員へ変更される場合もあわせてご連絡下さい。

なお、他種別から学生会員へ変更する場合には、以下の必要事項を学会事務局 (office@jset.gr.jp) へご連絡下さい。

- ①大学名・所属学部名
- ②住所
- ③電話番号
- ④指導教員
- ⑤卒業見込年月

※2010年度の論文誌は、年会費を送金された会員のみ発送致しますので、ご了承下さい。

◎学会日誌

- ・ 2010年10月23日(土)
研究会「メディアの活用と教育・学習環境」(茨城大学)
- ・ 2010年12月18日(土)
研究会「ICTを活用したFDと大学・高大連携」
(大分大学)
- ・ 2011年02月19日(土)～20日(日)
冬の合宿研究会「質的データを分析しよう！」
(チサンホテル札幌)
- ・ 2011年03月05日(土)
研究会「学校現場に対する支援」(静岡大学)
- ・ 2011年03月18日(金)
産学協同セミナー
「産学で議論 教育工学の視点からの未来の学校(教室)」
(パナソニックセンター東京)

◎国際会議の案内

2010年

E-Learn 2010

<http://www.aace.org/conf/eLearn/>
(10/18-22 Orlando, Florida)

mLearn2010

<http://www.mlearn2010.org/>
(10/19-22 Valletta, Malta)

ICCE 2010

<http://www.icce2010.upm.edu.my/>
(11/29-12/3 Putrajaya, Malaysia)

2011年

SITE 2011

<http://site.aace.org/conf/>
(3/7-11 Nashville, Tennessee, USA)

ED-MEDIA 2011

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>
(6/27-7/1 Lisbon, Portugal)

CSCS 2011

<http://www.isls.org/cscl2011/home.htm>
(July 4-11, Hong Kong, China)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2010@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

編集長：清水康敬(東京工業大学)
担当副会長：永岡慶三(早稲田大学)
広報委員長：赤倉貴子(東京理科大学)
幹事：伊藤剛和(奈良教育大学)
委員：永田智子(兵庫教育大学)、皆川武(目白大学)、
宮田仁(滋賀大学)
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル
TEL&FAX 03-5740-9505
E-mail：office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 175
2010年10月14日

発行人●会長 永野和男(聖心女子大学)